



1万人を超える犯罪者の心理分析から見た子育ての大切さ(2)

東京未来大学 副学長 こども心理学部長／出口 保行

前回の連載でお伝えしたとおり、筆者は、大学教員となる前に法務省の心理職として、少年鑑別所・刑務所・拘置所という矯正施設で犯罪者の心理分析に当たっていました。非行少年や成人犯罪者を心理分析するたびに、非行・犯罪に家族が与える影響の大きさを知ることになりました。現在は大学で教える傍ら、年間200本程度、テレビの報道番組に出演し犯罪の解説をしています。そんな際にも各々の犯罪の陰に色濃く影を落とす家族の存在に言及することが多くあります。

さて、犯罪心理学者である私が提唱する防犯理論は、「攻める防犯」というものになります。従来の防犯は、犯罪者が犯罪という攻撃行動をしてくる際に、どうやって身を守るかといういわば「守備型」の防犯が主体でした。しかし、矯正施設内で多くの犯罪者の心理分析をしていると、同じ人間が犯罪行為を行う時と行わない時があることがわかります。その違いは何であるのかを調査し、立ち上げた理論がこの「攻める防犯」という犯罪者に犯罪を行わせにくくする防犯理論になります。動機が形成されても実行されない限り犯罪は起きません。よくテレビの中で、「動機が犯罪に直結している」かのような質問をされます。しかし、動機が形成されてもそのほとんどは実行されません。それは犯罪の常習者でも同じです。すべての課題を犯罪で解決しようとする者などほとんど存在しません。つまり、動機を形成しても実行できない状況をどのように作るかが「攻める防犯」の大切なポイントとなります。

動機が形成された後、実行するかどうかを考える際に、従来は経済学の理論を援用して「コスト・パフォーマンス」理論が適用されていました。例えば窃盗を例に考えた場合、小さな労力で多くのものが盗めるなら動機を実行に移すが、大きな労力をかけても少量しか盗めないなら動機を実行に移さないという考え方です。しかし、1万人を超える犯罪者を心理分析する中で、こうしたコスパで考えているものはごく少数であることがわかりました。それでは何が動機を実行につなげるのでしょうか。

動機が形成されてから実行に移すまでには何百回、何千回という意味決定と行動化という過程が繰り返されます。たとえば万引きを例に挙げれば、自宅の部屋にいて万引きを思いついたとします。まず自分の部屋から出るかどうかが、玄関で靴を履くかどうか、玄関からでるかどうかが等々、すべての意思決定で「YES」を選択し、実際に行動化しない限り、犯行は前に進みません（図1参照 出口、2020）。

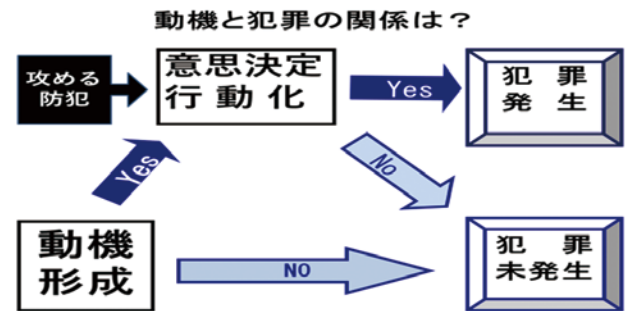


図1 動機形成から犯罪発生までの流れ

ここでYESを選択するかどうかに関わっているのが「リスクとコスト」になります。リスクとは「検挙リスク」、つまり逮捕される危険性の高さ。コストとは、「失うものの大きさ」です。個人の信頼であったり、職場・学校などの社会的地位などとなります。リスクを高く見せることは防犯の基本ですが、実は非常に大きく影響しているのがコストになります。多くの者の場合、このコストとして一番大きく機能しているものは家族です。犯罪を実行することは、家族を悲しませる結果となり、家族からの信頼を失うことになるからです（図2参照 出口、2020）。

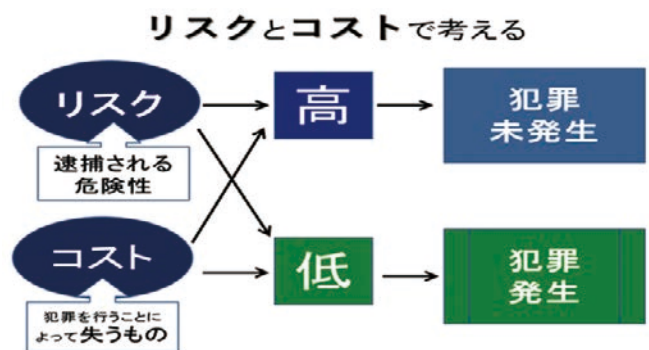


図2 犯罪を促進・抑制するリスクとコスト

連載第一回でも取り上げた著書「犯罪心理学者が教える子どもを呪う言葉・救う言葉」（出口保行 SB新書、2022）の中でも、こうした家族が非行の大きな原因となった「コウジ」の事例を取り上げています。

コウジは地元の有名な進学校に通う高校生でした。母親は開業医。コウジは幼いころから成績が優秀であったので、母親は将来的には病院をコウジに継いでほしいと思っていました。コウジも小学生くらいまでは期待されていることがうれしくて勉強に打ち込んでいましたが、中学生になり自我が芽生えるとともに、なぜ自分だけ親の期待に応えなくてはならないのだという疑問が生じて

きました。兄は自分の好きなことをしているのに、なぜ自分だけがという思いです。また、父親はほとんど家の中で意見を言わず、母親に従っているだけの状況でした。

そんな母親の口癖が「勉強しなさい」。親であればそれでも使う言葉ですが、この家庭ではこどもの感情を無視して使われました。成績至上主義です。少しでも成績が下がると「調子に乗っているのではないか」というようなことを言われます。当然ですが、コウジの不満は募る一方で、最終的には模造銃を作って両親を射殺しようとするところまでいってしまいました。

心理学では「ブーメラン効果」というものが存在すると言われています。人は何かをしなさいと言われれば言われるほどやりたくなくなるというものです。読者の皆さんにも思い当たる節があると思います。しかしコウジの母親はこのブーメラン効果を無視してひたすら「勉強しなさい」と言い続けました。

最大の「コスト」であるべき家族が非行の促進要因になってしまった事例となります。

もちろん親としては子の将来を囑望して「よかれと思って」かけていた言葉なのですが、それが裏目に出てしまいました。

コウジの母親はどうすればよかったのでしょうか。もちろん、こどもに自分の夢を押し付けけないことが最も大切なことですが、とはいえそうも言っていないことも多くあります。コウジの家庭の場合は母親が開業し、それも普通の開業医では置かないような高価な機材を入れてしまったため、多額の資金がかかってしまい、次世代まで病院が続かないと、開業資金の回収ができないと考えられていました。

そんな背景があったので気が焦り、「勉強しなさい」を連呼していたようです。この場合、スモールステップ

による学習がとても大切になります。スモールステップとは単に目標を示すのではなく、それを成し遂げるための方法を小さく段階づけて考える。今、なんで成績が上がっていないのか、それを上げるためには何が必要なのか、そして実行するためにはどういうことが必要なのか、これらを詳細に検討し、親子間で話し合って目標に向けて努力する、こうしたプロセスが重要となります。

似たような事例でこの本で紹介されている「ナオト」の事例になります。

ナオトもコウジと同様に母親から期待されて育ちました。そんな母親の口癖は「頑張って」。これもどの親でも使うのではないのでしょうか。私も娘たちに何度言ったかわかりません。こどもを心配するが故の一言になります。しかし、これも程度問題。ナオトの母親は簡単にはこどもの努力を認めません。少し成績が上がったとき、母親は内心はうれしいのですが、言葉として発するのは「そんなくらいで喜んではいけないう」という言葉。最終的には、ナオトは何を努力しても無駄という「学習性の無力感」というものに陥ってしまいました。そんなナオトの非行は大麻。現実逃避しながらボーッと時間を過ごすことにはまってしまいました。

子育て、どうすればよいというマニュアルはあるようではありません。すべてはスムーズな親子関係が成立しているか、こどもの気持ちを最優先に考えているか。こどもときちんと話し合っているかという日常生活の中のこどもとの関係性にかかっています。胸襟を開いてこどもを受け入れる、とても大切なことです。

参考文献

出口保行、2020、マッセOSAKA研究紀要第23号



株式会社 ニシハタシステム

園業務のお悩みを
IP無線機
で解決します！



タレント・俳優
杉浦太陽

3期目を迎えるにあたって

一般財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 安家 周一



2020年11月、大混乱の中、当機構の理事長を引き継ぎ、現在に至ります。突然のことでしたが、副理事長、専務理事、事務室員と事態の収束や処理を行いました。そして、襟を正す意味で、内閣府に自ら公益認定の返上を申し出て受理され、2021年6月に一般財団法人に改組いたしました。

引き続いて、機構の大きな収入の大半を占めていた「教員免許状更新講習制度」について、中教審の協議を経て発展的解消の措置が取られました。多くの義務教育教員の負担が大きかったことが主なる根拠でした。私たち幼稚園教員の更新講習に対する評価は、おおむね良好で、10年の学び直しが新鮮であったという意見や、特に嘱託や非常勤で働く教員には、これまで研修の機会に恵まれず、この更新講習は非常にためになったなどの感想が多く寄せられておりました。中教審の委員として継続を主張いたしましたが、取りやめが決定しました。

今後の機構の運営が難しさを増していたころ、コロナ禍が襲いかかり、私たちの保育活動も大きな影響を受けました。「不要不急な外出の自粛」が政府からも発せられ、日常の保育活動ばかりか、教職員の研修機会にも大きな影響が出ました。急遽オンデマンド研修組織を立ち上げ、幼稚園ナビ（人材確保、研修会の申し込みなどに使用）の中に、「ゆたかなまナビ」という仮称でオンデマンド研修コンテンツを集積し、システムの運用を始めました。幼稚園は徐々に施設型給付園が増え始め、教職員の処遇改善制度が発足し、当時厚労省が決めた研修の受講が必要とされました。

教員免許更新講習の際にも、義務教育教員の研修とは別に、機構独自の研修を認めていただいていた経緯もありました。幼児教育課とも綿密な打ち合わせを行い機構の実施している研修については処遇改善に必要な研修として、またマネージメントについても認められることになりました。おかげで、教職員のオンデマンド研修が滑り出し、たくさんの教職員の研修履歴を証明する「研修履歴証明書」の発行が可能となっています。この成果もあって、過去から研修ハンドブックに蓄積した研修が、処遇加算の研修に該当することとなり、教職員の所得増につながっています。その後も、オンデマンドチームによって集積された研修が徐々に整い、事務職や看護職、リスクヘッジやバスの運行など、多種多様な研修も実施し多くの方にご利用いただいています。研修の受講料収入も増え始め、機構の財政状況も2023年度については

少額の赤字で一息つくことができています。

しかし、これらの処遇改善のための研修は、一定の方が要件を満たした後の受講は大きくは見込めず、機構の運営は不安定なものとなることが想定されています。基礎的な収入構造が必要であることは、多くの経営者の皆さんにはご理解いただけたと思います。新たな収入の構造を作る必要があり、今年度前半に協議し全日私幼連の皆様にも開示いたします。

この度の機構理事会で、再度理事長職を重任するようにと選出いただきました。正直申し上げてこれからの難儀を考えると、腰が引けることがあります。設置者・園長をはじめ、教職員の皆様方のお力添え、副理事長、宮下友美恵氏、川名マミ氏に安達譲氏を加え、専務理事には引き続き加藤篤彦氏に就任いただき態勢を強化しました。委員長も有能な方々に依頼し、研修・研究/広報・家庭支援/オンラインコンテンツの充実に加え、ECEQ[®]を中心とした学校評価についても研究し、幼児教育振興法（仮称）成立後の評価機関の一翼が担えるよう準備を整えたいと思います。これを成し遂げるには、有能な機構事務室が必要です。幸い6人の事務室員が整いました。スキルを上げ機構の運営にあたってくださることを期待しています。市ヶ谷にお越しの節は、明るくなった事務室においてください。お待ちしております。

安家周一氏が理事長に再任 副理事長に宮下友美恵氏、安達譲氏、川名マミ氏、 専務理事に加藤篤彦氏

● 4.15 第1回評議員会

4月15日、第1回評議員会がオンラインにて開催され、評議員9人が出席しました。安家周一理事長のあいさつ後、出席した評議員の互選により、永保貴章評議員が議長に選任され、議事録署名人に浅利健自評議員、山崎英明評議員が選出されました。なお、報告案件の議事内容詳細は3月29日に開催された第4回理事会（まなびの広場4月号VOL12掲載）の承認・報告内容通りです。

【決議案件】

1. 定款の変更の件

安家理事長より、令和6年5月に迎える理事、監事、委員等の改選期をもって、組織体制の変更を行うことと新体制の^(図1)説明がありました。さらに事務室より組織体制変更に伴う定款の変更内容について説明がありました。審議の結果、満場一致をもって承認されました。

【報告案件】

1. 令和5年度補正予算の件
2. 令和6年度事業計画の件
3. 幼稚園ナビに代わる新システム「ゆたかなまナビ」の利用料の件
4. 令和6年度収支予算の件
5. 委員会規程の変更の件
6. ECEQ[®]専門部会の取扱いの件
7. 賛助会員入会の件
8. 理事会からの執行報告の件

● 5.15 第1回理事会

5月15日、第1回理事会が対面とオンラインの併用にて開催され、理事16人が出席しました。安家理事長が議長となり、議事録署名人は、大林晃理事、飯塚拓也理事が選任されました。議事内容は以下の通りです。

【決議案件】

1. 令和5年度事業報告及び収支決算の承認の件^(注1～4)

岡本和貴研究研修委員長、高尾恵子調査広報委員長、加藤篤彦専務理事より令和5年度事業報告について説明がありました。また、令和5年度収支決算について事務室より説明があり、安西透監事より監査報告がありました。最後に議長より今後の事業展望について説明がありました。審議の結果、事業報告・収支決算いずれも満場一致をもって承認されました。

2. 基本財産の取崩の承認の件

議長より基本財産の取崩について説明があり、審議の結果、満場一致をもって承認されました。

3. 今後の機構の在り方を検討する専門部会の設置の承認の件

今後の機構の在り方を検討する専門部会について説明しました。審議の結果、その設置が満場一致をもって承認されました。

4. 各委員会・専門部会構成員の選任の件

議長より組織体制の変更内容を諸会議で説明する必要があったため、各委員会と専門部会の構成員の選任は、理事長・副理事長・専務理事を選任する理事会での決議事項としたい旨の説明がありました。審議の結果、満場一致をもって承認されました。

5. 令和6年度第2回評議員会の開催の件

議長より第2回評議員会の開催について説明があり、審議の結果、満場一致をもって承認されました。

【報告案件】

1. 業務執行理事からの執行報告の件

各業務執行理事から業務執行状況の報告がありました。

● 5.30 第2回評議員会

5月30日、第2回評議員会が対面とオンラインの併用にて開催され、評議員9人が出席しました。安家理事長のあいさつ後、出席した評議員の互選により、金沢友治評議員が議長に選任され、議事録署名人に水原紫乃評議員、坂本美代子評議員が選任されました。決議案件3を除く議題は、第1回理事会の承認・報告内容通りです。

【決議案件】

1. 令和5年度事業報告及び収支決算の承認の件^(注1～4)

2. 基本財産の取崩の承認の件

3. 理事、監事の選任の件

安家理事長より各候補者に関する説明があり、審議の結果、満場一致をもって承認されました。

【報告案件】

1. 今後の機構の在り方を検討する専門部会の設置の件

2. 各委員会・専門部会構成員の選任の件

3. 理事会からの執行報告の件

● 5.30 第2回理事会

5月30日、第2回理事会がオンラインにて開催され、理事18人が出席しました。議事録署名人は満場一致をもって宮下友美恵理事、川名マミ理事が選任されました。議事内容は以下の通りです。

【決議案件】

1. 理事長、副理事長及び専務理事の選任の件

安家理事より理事及び監事の選任状況について説明がありました。その後、理事より理事長、副理事長及び専

務理事の候補者について提案があり、審議の結果、満場一致をもって決議されました。

2. 責任限定契約の承認の件

事務室より責任限定契約について説明があり、審議の結果、満場一致をもって承認されました。

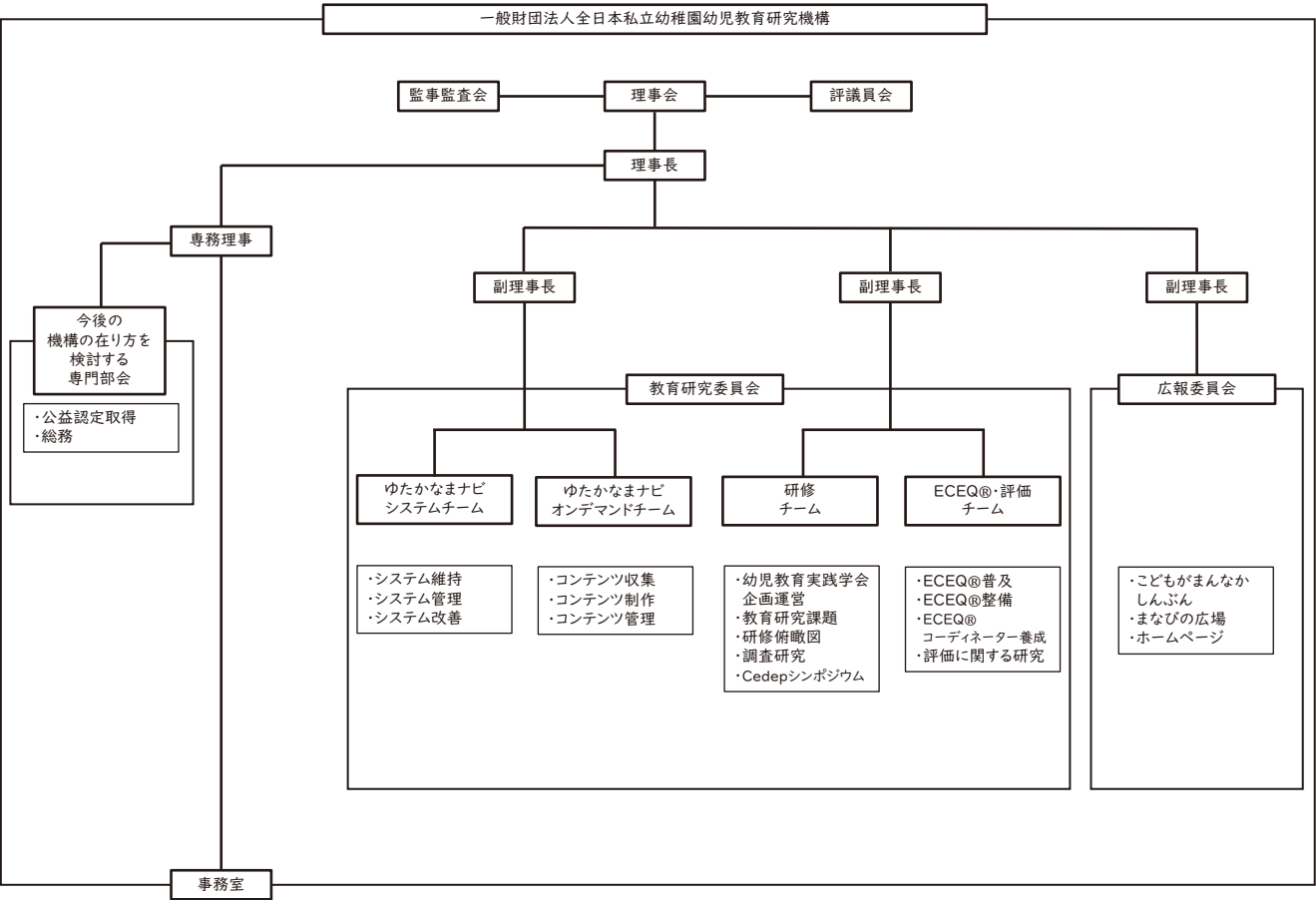
3. 各委員会構成員専任の件

事務室より新組織図の説明があり、各副理事長から各委員会やチーム構成員候補者の説明がありました。審議の結果、満場一致をもって選任されました。

(専務理事 加藤篤彦)

(図 1)

令和6年度改選後 機構組織図



令和5年度事業報告及び収支決算について

(注 1) 令和5年度事業報告書



(注 2) 令和5年度正味財産増減計算書



(注 3) 令和5年度貸借対照表



(注 4) 令和5年度財産目録



一般財団法人 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

収支決算書

令和5年4月1日から 令和6年3月31日まで

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差異	備 考
I 事業活動収支の部				
事業活動収入の部				
1 基本財産運用収入	3,000	1,670	1,330	
基本財産運用収入	2,000	1,654	346	
特定財産運用収入	1,000	16	984	
2 会費収入	54,600,000	54,702,700	△ 102,700	
賛助会員会費収入	54,600,000	54,702,700	△ 102,700	
3 事業収入	76,953,000	88,925,078	△ 11,972,078	
資質向上事業収入	71,953,000	83,967,615	△ 12,014,615	
幼児教育実践学会収入	4,753,000	4,753,000	0	
ECEQ®事業収入	4,200,000	4,258,370	△ 58,370	
その他資質向上事業収入	63,000,000	74,956,245	△ 11,956,245	
調査研究事業収入	5,000,000	4,957,463	42,537	
4 補助金収入	0	0	0	
5 寄付金収入	0	0	0	
6 雑収入	2,301,000	2,493,752	△ 192,752	
受取利息収入	1,000	753	247	
印税等収入	500,000	663,749	△ 163,749	
広告収入	1,200,000	1,229,250	△ 29,250	
その他収入	600,000	600,000	0	
事業活動収入計	133,857,000	146,123,200	△ 12,266,200	
事業活動支出の部				
1 事業費	136,800,000	128,656,985	8,143,015	
資質向上事業支出	33,000,000	25,316,409	7,683,591	
幼児教育実践学会支出	4,000,000	3,527,136	472,864	
全国研究研修担当者会議支出	1,000,000	825,536	174,464	
ECEQ®事業支出	1,500,000	1,470,840	29,160	
その他資質向上事業支出	26,500,000	19,492,897	7,007,103	
調査研究事業支出	5,000,000	5,242,589	△ 242,589	
家庭・地域教育力向上事業支出	53,500,000	52,490,543	1,009,457	
情報誌発行支出	53,500,000	52,490,543	1,009,457	
機関誌発行事業支出	5,000,000	5,085,865	△ 85,865	
教員免許更新講習事業支出	200,000	134,506	65,494	
委員会開催事業支出	4,500,000	3,151,987	1,348,013	
調査広報委員会支出	1,500,000	820,123	679,877	
研究研修委員会支出	1,500,000	1,125,655	374,345	
ECEQ®専門部会支出	1,000,000	929,608	70,392	
その他のワーキングチーム等活動費支出	500,000	276,601	223,399	
事業関係人件費支出	18,000,000	16,998,269	1,001,731	
事業関係事務費支出	17,600,000	20,236,817	△ 2,636,817	
2 管理費	17,800,000	17,604,102	195,898	
総務費支出	3,900,000	3,209,967	690,033	
理事会支出	1,000,000	1,146,858	△ 146,858	
評議員会支出	500,000	367,551	132,449	
監事会支出	400,000	164,973	235,027	
諸会議費支出	2,000,000	1,530,585	469,415	
人件費支出	4,500,000	4,249,545	250,455	
事務費支出	4,400,000	5,144,590	△ 744,590	
寄付金支出	5,000,000	5,000,000	0	
事業活動支出計	154,600,000	146,261,087	8,338,913	
事業活動収支差額	△ 20,743,000	△ 137,887	△ 20,605,113	
II 投資活動収支の部				
投資活動収入の部				
1 基本財産引当資産繰戻収入	5,000,000	5,000,000	0	
投資活動収入計	5,000,000	5,000,000	0	
投資活動支出の部				
1 特定資産繰入支出	700,000	725,760	△ 25,760	
退職給付引当資産繰入支出	700,000	725,760	△ 25,760	
2 什器備品購入支出	0	7,606,500	△ 7,606,500	
ソフトウェア支出	0	7,606,500	△ 7,606,500	
投資活動支出計	700,000	8,332,260	△ 15,238,760	
投資活動収支差額	4,300,000	△ 3,332,260	15,238,760	
III 予備費支出	0	0	0	
当期収支差額	△ 16,443,000	△ 3,470,147	△ 12,972,853	
前期繰越収支差額	66,268,508	66,268,508	0	
次期繰越収支差額	49,825,508	62,798,361	△ 12,972,853	

収支計算書に対する注記

1. 資金の範囲について
資金の範囲には現金預金、未収入金、前払金、仮払金及び未払金、前受金、仮受金、預り金を含めております。
なお、前期末及び当期末残高は、下記 2 に記載するとおりです。
2. 次期繰越収支差額の内容は、次のとおりです。

科目	期首残高	当期末残高
現金・預金	50,974,620	61,438,323
未収入金	17,224,138	5,108,027
前払金	95,437	91,960
仮払金	0	0
合 計	68,294,195	66,638,310
未払金	593,632	2,645,098
前受金	1,262,500	900,650
仮受金	0	0
預り金	169,555	294,201
合 計	2,025,687	3,839,949
	66,268,508	62,798,361

一般財団法人 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 役員名簿

理事

◎	安家 周一	大 阪・学校法人あけぼの学園認定こども園あけぼの幼稚園理事長
○	宮下友美恵	静 岡・学校法人静岡豊田学園静岡豊田幼稚園園長
○	安達 譲	大 阪・学校法人ひじり学園認定こども園せんりひじり幼稚園理事長
○	川名 マミ	京 都・学校法人菊の花学園菊の花幼稚園理事長
*	加藤 篤彦	東 京・学校法人武蔵野東学園武蔵野東第一・第二幼稚園園長
	秋田喜代美	学習院大学文学部教育学科教授
	岩立 京子	東京家政大学子ども支援学部子ども支援学科教授
	内野 光裕	東 京・学校法人内野学園清瀬ゆりかご幼稚園理事長
	大澤 力	東京家政大学大学院人間生活学総合研究科客員教授
	大野 教正	山 口・学校法人真福学園認定こども園ふくがわこども園園長
	岡 健	大妻女子大学家政学部児童学科教授
	坂水 かよ	岩 手・学校法人聖パウロ学園聖パウロ幼稚園園長
	下笠 敏大	宮 崎・学校法人三育学園認定こども園光が丘幼稚園園長
	杉山 一夫	岐 阜・学校法人杉山第三学園うめま第一幼稚園理事長
	関 政子	東 京・学校法人八幡学園やはた幼稚園園長
	田中 伸宜	神奈川・学校法人文伸学園綾南幼稚園理事長
	土居 孝信	大 分・学校法人明佳学園双葉ヶ丘幼稚園理事長
	松下 瑞良	和歌山・学校法人法輪学園認定こども園湯浅幼稚園園長
	箕輪 潤子	武蔵野大学教育学部幼児教育学科教授
	山西 幸子	青 森・学校法人光星学院八戸学院聖アンナ幼稚園園長

監事

	安西 透	神奈川・学校法人和泉平和学園平和幼稚園理事長
	北條 泰雅	東 京・学校法人みなと幼稚園理事長

(令和6年5月30日現在)

※◎理事長、○副理事長、*専務理事

私達は衝撃緩和帽の開発を通じて大切な子供達の未来を守ってゆきます！

**ゴツツン!! から、
まもってあげたい。**

遊具でふいに
地震でぐらり

子どもの頭を守る帽子

この帽子痛くない！

企画・開発 **株式会社リード**
〒028-6104
岩手県一戸市米沢字家ノ上39-1
<http://hot-anshin.com//index.php>

お問い合わせはこちら
アルファアテンド株式会社
TEL 070-5550-1982
FAX 042-673-2076
alfha.attend@gmail.com

副理事長・専務理事就任にあたっての抱負

● 宮下友美恵副理事長より ●

私は昨年度に引き続き、副理事長として教育研究に関する事業に携わらせていただきます。

幼児教育は、今、質の時代を迎えています。良質な幼児教育は、まさに子どもたちのためにあると言えるでしょう。子どもたちが今も未来も幸せに生きていくためには、幼児期に良質な教育を受けることがとても重要です。その重要性を自覚し、保育者としての資質をさらに向上させたい、学び続けたいと願っている方々は全国に大勢いらっしゃると思います。当機構はそのような保育者の学びや園の豊かな教育実践を支え続ける組織として、その使命と責任をしっかりと果たしてまいります。

今年度から機構の教育研究委員会の中に「ゆたかなまナビ システムチーム」「ゆたかなまナビ オンデマンドチーム」「研修チーム」「ECEQ®・評価チーム」の4つのチームが設置されました。これらのチームは、専門性の高いチームとしてそれぞれが活動しつつ、必要に応じてチーム同士が協働し合いながら事業を進めていきます。現場の視点を大切にした幼児教育実践学会も今年で第15回を迎えます。第1回から携わらせていただいた者としては、実践学会がさらにグレードアップすることと、ここでの学びが研究者や社会に広く認められることを目標の一つとして、今期も努力していきたいと思います。

● 川名マミ副理事長より ●

令和4・5年に引き続き令和6年度6月より広報担当副理事長の任をいただきました。

広報委員会ではこどもがまんなかしんぶん・まなびの広場・ホームページの充実の各事業に取り組んでおります。保護者向けの紙面であるこどもがまんなかしんぶんでは、幼稚園での子ども達の営みや幼児教育の重要性を伝えるエッセンスを取り入れながら、読みやすい内容、文字量、を心掛け掲載しています。委員の協力を得て各園の子ども達の様子を写真で伝えるなど、視覚的にも工夫をしています。また、本誌まなびの広場では、設置者・園長先生はじめ教職員の皆様方に機構の活動および、オンデマンド研修情報など有益な内容をわかりやすく掲載しております。

そして、ホームページは令和5年10月にリニューアルし教育研修部門の実践学会・ECEQ®など機構の活動の詳細を発信しております。各園の皆様・保護者の皆様・一般社会の皆様など、どのカテゴリーの方々にとっても見ていただきやすいものであることを念頭に運用しているところです。機構の公益法人取得に向けて発信することの重要性を再認識し委員会委員一同力を入れて頑張る所存です。本年度もどうぞよろしくお願いいたします。

● 安達譲副理事長より ●

この度、副理事長として「ゆたかなまナビ」に関する事業に携わらせていただくこととなりました。コロナ禍によりこれまで対面での研修を中心としていたものからオンデマンド等での研修が求められるようになりました。対面の研修や園内研等の対面で学び合うことの大切さはもちろんありますが、全国の園で様々な働き方をされている多様な職種の方々が学びたい時に学びたい内容を自分に都合の良い場所で学ぶことができるように、ゆたかなまナビのコンテンツの充実に努めてまいります。また、皆さんが使いやすかつ学んだ大切な研修履歴を確実にお預かりできるようにシステムの安定と改善も非常に重要な役割となります。それらの役割を果たすための財源等が必要なことについてもご理解をいただければと存じます。機構が研修俯瞰図を作成したときの目的は、学びの全体像を俯瞰して保育者が自ら研修の主体者として学ぶしくみを作ることでした。教職員の皆さんがこどもの育ちを支えるために学びたい、課題を解決したいと思える内容（コンテンツ）の充実により、質の高い保育が全国の加盟園で実践されるよう委員の皆さんと共に微力ではありますが力を尽くしたいと存じます。

● 加藤篤彦専務理事より ●

専務理事を拝命しました加藤篤彦です。今期もどうぞよろしくお願い申し上げます。

幼児教育の量の提供の確保を求める拡大のトレンドが終わり、いよいよ幼児教育の質の高さが求められるようになってきました。一方で急激な少子化という現実の中で、皆様の園が幼児教育の拠点として、幼児教育の質を担保できるように、保育者の皆様には、良質な研修の提供や研修のサポートを。園に対しては、幼児教育の質を向上させるECEQ®の普及に努めてまいります。

専務理事としての今期の大きな目標は、公益財団法人化を目指した安定的な運営をめざすことにあります。まずは当機構の収支構造を安定化させ落ち着いたものにしておくてはなりません。今後予想されるのは「幼児教育の質の評価」という観点です。当機構では、これを先取りして構築してきた「研修の体系的な実施と研修履歴の保管」の実績があります。この実績を広く世間にアピールしてまいります。

また、公益としての研修と評価が果たす役割を担う当機構と、振興対策を担う全日私幼連とが、車の両輪となって、幼児教育の推進が図れるように、互いの役割分担を明確にする「パートナーシップ協定」を早期に結べるように取り組んでまいります。

機構からのお知らせ

令和6年度第2期オンデマンド研修21コンテンツが新たに加わりました!

《オンデマンド研修概要》

- 申込期間：～令和7年2月27日（木）17時
- 配信期間：～令和7年2月28日（金）17時
- 申込方法：教職員登録のうえ、ゆたかなまナビよりお申し込みください。
- 研修スタンプ：研修受講後、3択5問の設問に回答し、80%以上の正解で研修スタンプを取得することができます。（追試は2回まで）
- 処遇改善等加算Ⅱ：対応しています。
- 受講方法：お申込後、登録したメールアドレスに届くメールもしくは、ゆたかなまナビマイページに掲載の動画視聴URLより受講ください。
- 受講料：研修によって異なります。ゆたかなまナビでご確認ください。
- 支払方法：クレジットカード決済／コンビニ決済

講演名	講師名／肩書	時間数	俯瞰図番号
子どもの未来を育む食育の重要性	中山 玲子（京都女子大学 副学長／副栄養クリニック長）	1.5	A2
夏に向けての保健活動	福島 美由紀（社会福祉法人あけぼの事業福祉会豊中あけぼのこども園 看護師）、舩木 桃（学校法人あけぼの学園あけぼの幼稚園 看護師）、小倉 理沙（社会福祉法人あけぼの事業福祉会あけぼのぼんぼこども園 看護師）	0.5	A2
子どもが安全にすくすく育つ園づくり～指針・要領に基づく保育実践から、子どもの健康と安全を考える～	猪熊 弘子（駒沢女子短期大学保育科 教授）	1.5	A3
災害時保育教諭が『セルフコントロール』のためにできること	山口 慎介（おおいたパパくらぶ代表 他）	1.5	A3
「ぶんぶんゴマ」で遊ぼう！！	原 陽一郎（筑紫女学園大学人間科学部人間科学科初等教育・保育専攻 教授）	0.5	B3
（教材研究シリーズ）0・1・2歳児の遊びと表現 ～ 素材と向き合う ～	和泉 誠（株式会社な一と 代表取締役）	1.5	B3
幼稚園の歴史から学ぶ幼児教育	塩路 晶子（鳴門教育大学高度学校教育実践専攻幼児教育コース教育実習総合支援センター 教授）	1.5	C1
幼稚園における2歳児の保育 ― その多様性と質について考える ―	古賀 松香（京都教育大学教育学部幼児教育科 教授）	1.5	C2
学校法人会計（中級編）	守屋 俊晴（公認会計士／税理士守屋俊晴事務所 所長）、石橋 もと子（公認会計士／税理士守屋俊晴事務所 税理士）	1.5	C3
資質・能力を基盤とした教育とは何か ～ 幼小の連携・接続を中心に ～	奈須 正裕（上智大学総合人間科学部教育学科 教授）	2.0	C3
「子ども“が”ケアする世界」を考える	岩田 恵子（玉川大学教育学部乳幼児発達学科 教授）	1.0	D2
第1回「基礎講話：集団で育てる特別でない特別支援 ― 特別支援とは何か ―	上原 芳枝（特定非営利活動法人リソースセンター 代表理事／臨床発達心理士）	2.0	D3
第2回「脳機能の視点による理にかなった支援① ― 感覚過敏・情報処理の問題 ―	上原 芳枝（特定非営利活動法人リソースセンター 代表理事／臨床発達心理士）	2.0	D3
第3回「脳機能の視点による理にかなった支援② ― 環境刺激の処理困難 ―	上原 芳枝（特定非営利活動法人リソースセンター 代表理事／臨床発達心理士）	2.0	D3
第4回「脳機能の視点による理にかなった支援③ ― パニック・自己コントロール他 ―	上原 芳枝（特定非営利活動法人リソースセンター 代表理事／臨床発達心理士）	2.0	D3
ベーシック研修「集団で育てる特別ではない特別支援 ― 脳機能の視点により心を育てる ―	上原 芳枝（特定非営利活動法人リソースセンター 代表理事／臨床発達心理士）	2.0	D3
第5回「脳機能の視点を踏まえた気になる子を含むクラスづくり ― 見えない支援・見せない支援 ―	上原 芳枝（特定非営利活動法人リソースセンター 代表理事／臨床発達心理士）	2.0	E2
第6回「実効性の高い個別指導計画の立案 ― 理にかなった活きた処方箋づくり ― 事例検討演習	上原 芳枝（特定非営利活動法人リソースセンター 代表理事／臨床発達心理士）	2.0	E3
子ども理解が深まるまなざしと保育者の専門性 ― doing 保育からbeing 保育への転換を目指して ―	井桁 容子（非営利団体コドモノミカタ 代表理事）	1.5	E5
スタートカリキュラムから架け橋プログラムを考える ～ 幼児期の発達や学びからスタートカリキュラムへ ～	竇来 生志子（東海大学児童教育学部児童教育学科准教授）	1.5	F1
専門機関の役割と連携	金子 信夫（発達相談支援GoldKids 代表）	1.0	F1

令和6年12月2日にも新規コンテンツを配信する予定です。ゆたかなまナビをチェックして、研修の受講をご検討ください！
配信コンテンツには、すでに各都道府県私立幼稚園団体等で配信したコンテンツも含まれますので、お申込み時にはご注意ください。

(一財) 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構監修／ 「幼稚園・認定こども園キャリアアップ研修テキスト」を用いたオンデマンド研修

主催／(一財) 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

協力／中央法規出版株式会社

《オンデマンド研修概要》

- 申込期間：令和6年6月14日（金）10：00～令和6年7月12日（金）17：00
- 配信期間：令和6年8月1日（木）10：00～令和6年8月30日（金）17：00
- 申込方法：教職員登録のうえ、以下のQRコードがゆたかなまナビよりお申込みください。
- 研修スタンプ：研修受講後、3択5問の設問に回答し、80%以上の正解で研修スタンプを取得することができます。（追試は2回まで）
- 処遇改善等加算Ⅱ：対応しています。
- 受講方法：お申込後、配信期間内にゆたかなまナビマイページに掲載の動画視聴URLより受講ください。
- 受講料：本研修の受講にあたっては、当機構監修「幼稚園・認定こども園キャリアアップ研修テキスト」が必要になります。
本テキストをお持ちかどうかによって、申込の枠と受講料が下記の通り異なります。
なお、本テキストは、お一人様一冊ずつご用意の上、ご受講ください。
- 支払方法：クレジットカード決済／コンビニ決済

枠	申込内容	受講料
①	すでに、当機構監修「幼稚園・認定こども園キャリアアップ研修テキスト」をお持ちで、テキストを購入されない場合	6,000円
②	まだ、当機構監修「幼稚園・認定こども園キャリアアップ研修テキスト」をお持ちでなく、本研修の受講料の支払いにより新たにテキストを入手される場合	8,530円

保健衛生・安全対策

●講師

小林 美由紀先生／白梅学園大学 名誉教授・小児科医
鳥海 弘子先生／東京未来大学こども心理学部
こども心理学科 専任講師

●研修時間数

3.0時間

●俯瞰図番号

A2



食育・アレルギー対応

●講師

師岡 章先生／白梅学園大学子ども学部子ども学科 教授
林 薫先生／白梅学園大学子ども学部子ども学科 教授

●研修時間数

3.0時間

●俯瞰図番号

A5



特別支援教育

●講師

加藤 篤彦先生／武蔵野東第一幼稚園・武蔵野東第二
幼稚園 園長
若月 芳浩先生／玉川大学教育学部乳幼児発達学科 教授

●研修時間数

3.0時間

●俯瞰図番号

D3



乳児保育

●講師

井桁 容子先生／非営利団体コドモノミカタ 代表理事
箕輪 潤子先生／武蔵野大学教育学部幼児教育学科 教授
岩井 久美子先生／矢川保育園 園長

●研修時間数

3.0時間

●俯瞰図番号

D4



マネジメント

●講師

若立 京子先生／東京家政大学子ども支援学部
子ども支援学科 教授
箕輪 潤子先生／武蔵野大学教育学部幼児教育学科 教授

●研修時間数

3.0時間

●俯瞰図番号

E1



こちらのテキストを使用しての講座です



第15回

【テーマ】「一人ひとりの『こどもがまんなか』をまもる質の高い幼児教育を」

～社会全体でつむぎ未来へつなぐために～

参加申込がはじまります！

実践を語り合う場（研修）
にたくさんの参加を
お待ちしております。

幼児教育

【趣旨】幼児教育の実践を豊かにし、幼児教育の有用性を社会に示すことで、
子どもの育ちが最優先される社会が実現されることを目指して、2010年、幼児教育実践学会がスタートしました。

本学会では、3つの柱により学会運営を行います。

- ①保育現場での実践を踏まえ、発表は事例を用いて、
現場にフィードバックできることを念頭に研究会では参加者同士が活発に意見交換を行う
- ②生きた研修のメイキングの仕方を学び、全ての園の園内研修の充実を目指す
- ③保育実践者と研究者が共に育ちあう

実践学会

【期日】 2024年8月23日（金） 基調講演

24日（土） 口頭発表・ポスター発表・研究者（大学教員）発表

【基調講演Ⅰ】

グローバル社会の中での『個』育て

～多様な文化的背景を持つ子どもに向き合うために、「当たり前」を見直してみよう～

講師：唐澤 真弓 氏（東京女子大学現代教養学部心理・コミュニケーション学科教授/東京女子大学理事）

【基調講演Ⅱ】

子どもとの対話につながる大人の対話

講師：高橋 ゆう子 氏（大妻女子大学家政学部児童学科教授/児童臨床研究センター所長）

【協力】全日本私立幼稚園連合会

【会場】大妻女子大学 千代田キャンパス（〒102-8357 東京都千代田区三番町12番地）

【参加資格】幼児教育関係者

【定員】700人

【参加費】8,000円

【問い合わせ先】（参加の方法、研究発表の方法、学会内容など）

一般財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-2-25 私学会館別館 4階

メール：info@youchien-kikou.com

開催案内・参加申込については当機構HPからもご確認いただけます。

URL：<https://youchien.com/practical-society-15>

○学会への参加者申し込み期間は、2024年6月12日（水）13時～7月2日（火）17時までです



↑ ゆたかなナビ
お申込みページはこちら

第一生命財団「子どもの未来を応援する 保育所等助成事業」

第12回（2024年度）募集のご案内

＜応募対象施設＞全国の2021年から2024年4月末日までに認可等を受けて開園した「保育施設」

＜助成内容＞（助成の対象は下記のいずれかとなり、選考のうえ助成）

①什器・備品等購入費

②保育の質の向上につながる新規の取組の費用

＜募集締切＞7月5日（金）17時

＜応募方法＞第一生命財団HPより2024年度の応募用紙をダウンロードのうえ、Eメールにて提出（郵送不可）

詳細は下記URLもしくはQRコードよりご確認ください

(<http://group.dai-ichi-life.co.jp/dai-ichi-life-foundation/jyosei/index.html>)

